

愛知学泉大家政

○森屋 裕治

江川 元偉

〔目的〕 世界的規模を持つコンピュータネットワークである「インターネット」が家庭生活の様々な場面にも徐々に普及しはじめた。これは、コンピュータ（ハードウェア）を本格的に生活に導入させ、生活情報機器として活用させることのできるチャンスであり、家庭生活にどう影響をもたらす変革を与えるのかを慎重に検討すべき時期である。そこで消費者・生活者としての視点から、家庭生活を考える上でインターネットの普及・導入をどのように捉えればよいかの試案を述べる。

〔方法〕 インターネットのもつ性質や特殊性から、インターネットの普及による家庭生活への影響や、インターネットにおける倫理問題について論じる。

〔結果〕 インターネットは、確かに非常に大きな可能性を秘めており、また今後の普及には疑う余地はない。ただし、インターネット社会は何か特別なものというのではなく、現実の一般社会がもつ倫理観や価値観がそのまま映し出されるため、家庭に導入されることで、より直接的な影響をもたらすことになる。インターネットの商用利用がすすめば、インターネットがもつマイナス面が指摘されているように、家庭生活にもたらされるリスクを考慮しなくてはならず、教育機関における消費者教育もそれに対応する必要がある。インターネット利用が家庭生活の一部として取り入れられる前に、インターネットにおける倫理や規範が確立されるべきであるし、そのためにも家政学の立場から今後もより慎重にインターネットについて検討していく必要がある。